

令和4年度 ユース栃木夏山報告

- 1 期日：令和4年8月3日～5日
- 2 場所：八ヶ岳 硫黄岳・赤岳・権現岳
- 3 日程コース

8月3日 荒井宅発（13：30）－林宅（14：10）－結城市内で深谷と合流（15：00）－圏央道五箇IC－中央自動車道小淵沢IC－美濃戸口（20：00着）八ヶ岳山荘仮眠室にて宿泊

8月4日 美濃戸口（5：30発）～美濃戸山荘（6：20～6：30）～赤岳鉱泉（8：00～8：20）～硫黄岳（10：00）～硫黄岳山荘（10：15～10：30）～地蔵の頭（12：10）～赤岳（12：35～12：50）～赤岳頂上山荘（12：55着）【小屋泊】

8月5日 赤岳頂上山荘（5：15発）～赤岳（5：20～5：30）～キレット小屋（7：00）～権現岳（8：20～8：40）～編笠山（10：00～10：20）～富士見高原スキー場（12：20着）

- 4 参加者（3名）
荒井 理、林 祐寿、深谷 篤志
- 5 行動概要

早い梅雨明けで始まった今年の夏だが、7月に入ってからは大気不安定な日が続き昨年同様天候が心配される山行となった。今回夏山に選んだのは八ヶ岳。赤岳山頂を踏むだけなら日帰りでも可能だが敢えて権現岳を通過するルートを選んだ。個人的には赤岳頂上山荘の宿泊で、天気次第では日の入り・日の出が見られるのではと楽しみにしている。

8月3日 午後3時に結城市内にある深谷の職場で三人が合流した後、最寄りの圏央道五箇ICから高速道路を利用。途中雨に降られる所もあったが渋滞もなく進み中央自動車道小淵沢ICで高速を下りる。各高速道路の開通により山へのアクセスはとてども便利になったのもありがたい。道の駅小淵沢で入浴の後、コンビニで夕食・朝食の買い出しを済ませると、登山口である美濃戸口へ向かう。車中泊の予定だったが八ヶ岳山荘の仮眠室がある事を知り、利用する事にする。二階が宿泊室、一階がフリースペースとなっており自炊する事もできる。この日の利用者は我々三人だけで、快適に利用する事ができた。

8月4日 午前4時に起床、一階のフリースペースで各自用意した朝食を済ませパッキングをする。今夜も小屋泊ということで荷物が少ないので準備は楽である。不要な荷物を車に残し5時30分に美濃戸口を出発。天候は今にも降り出しそうな曇り空。林道を歩き始めて間もなくするとやはり雨が降り始め、少し雨足が強まったところで美濃戸山荘に到着。蒸し暑いので嫌だったが雨具を着ることになった。しばらく林道歩き堰堤広場を過ぎたところから登山道へ入る。沢沿いを進むため何度か渡渉を繰り返すが、足場パイプや木道で整備されているため安心して歩くことができる。午前8時、赤岳鉱泉に到着し休憩をとる。ちらほら登山者は見えるが平日という事もあり静かである。この頃には雨も上がり雨具を脱いで歩く事ができた。硫黄岳へのルートは樹林帯の中でやや急登となり赤岩ノ頭で急に辺りが開ける。さらに10分程で硫黄岳の広い山頂に到着するが辺りはガスで何も見えず、そのまま通過する。広いガレた尾根を下るがルート沿いには背丈ほどのケルンがあり迷うことはない。硫黄岳山荘を過ぎるとコマクサのお花畑が広

がり、電気柵で高山植物が守られている。見ごろにはやや遅かったようだが、時期が良ければ見事な景色に違いない。横岳への登りに入ると梯子・鎖場が続き岩稜のやせ尾根に出る。稜線上は西側が切れ落ちている所もあり鎖が手摺状になってはいるが慎重に通過する。2,830mの横岳最高峰のピークには先行の団体パーティーが休憩中、ガスもかかり展望もないためそのまま横岳を通過する事にした。地蔵の頭までは梯子や鎖場が続く下りとなるのでスリップに注意して進む。赤岳展望荘を通過するとようやく本日最後の登りとなり、この頃にはガスも抜けて振り返ってみると雲の切れ間から歩いてきた稜線を見ることができた。晴れていたなら最高の景色だったかと思うと残念だが、あまり雨に降られずに来られただけでも良かったとしよう。そして午後0時30分、本日の目的地である赤岳頂上山荘に到着。まずは目の前の赤岳頂上へ向かう。天候は終始曇りだったが、流れる雲の切れ間から見える山々は幻想的で素晴らしかった。その後山荘へチェックインし早速缶ビールを購入、無事の到着に乾杯した。この日の宿泊客は我々の他1名だけで、昨夜に続き静かで快適な夜となった。残念ながら日の入りを見ることはできなかったが、消灯の午後8時になる頃には甲府市内の夜景が見え、晴れマークのない明日の天気予報が外れる事に期待しつつ眠りについた。



【横岳からの下り】



【赤岳展望荘を過ぎて今日のルートを振り返る】



【赤岳山頂より】



【赤岳山頂から阿弥陀岳】

8月5日 朝は4時に起床。思ったほど寒くはなく小屋のお布団はとても快適だった。ただ一つコロナ渦ということで使い捨ての紙製の枕カバーを使用したけど動くたび「シャカシャカ」と音を立て静寂の邪魔をするので夜中に外してしまった。外を見ると雲の中から富士山がよく見えた。登るのは別としてもどこから見ても富士山とわかるシルエットはやはり素晴らしいと思った。朝食は小屋にお願いしたお弁当とお湯を沸かしそれぞれ温かい飲み物をとる。ちなみにお弁当は五目御飯。小屋は私たち以外は一人しか利用がなく広々と使うことができた。

準備を整え出発。赤岳で少し風景を楽しむ。市街地も近くまた360度山に囲まれた八ヶ岳は人と自然の織りなす風景がとても素晴らしい。昨年と同じメンバーということもあり遠くに見える北アルプスを眺め雨の中で登ったジャンダルムを思い出す。

赤岳を出発すると険しい岩稜帯をキレット小屋まで一気に高度差400mほど下る。途中ガレ場もあり落石に気を付ける場面もあった。この区間はなかなかの緊張感があり楽しめた。キレット小屋は閉鎖中。ここからは今までと反対に権現岳を目指し高度差300mほどを登り返す。とても損した気分だ。しかしこれも山登り・・・。途中名物の61段からなる鉄製の梯子を登る。長いので揺れもありなかなかスリルがある。梯子を上り切り後ろを振り返ると今まで歩いてきた稜線がきれいに見える。天気も良く眺望がすばらしい。

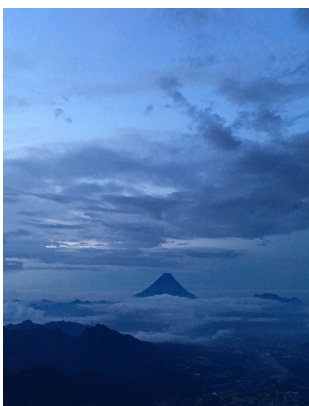
権現岳到着後は編笠山を目指す。途中「遠い飲み屋」として知られる青年小屋がある。星空を見ながらのお酒がおいしいらしい。網笠山はなかなか雄大な姿をしていて素晴らしい。頂上付近は大きな岩がごろごろしており、いったいどのように形成された山なんだろうかと思いを巡らす。また古いファンタの瓶が岩の間に落ちておりこれまたいつからあるのかと話題になった。編笠山からはゴールの富士見高原スキー場を目指す。なかなか長い下りではあるが苔むした樹林帯もあり景色も楽しめる。

下山後はタクシーを予約して温泉に入る。なかなか気持ちのいいお湯だった。お風呂を出てタクシー会社に連絡するとまだ手配できないとのことどうやら台数が少ないようだ。

ただ運よく予約したおかげで10分ほどで来ていただいた。(実は2時間待ちも覚悟した)

その後車に乗り換え道の駅で本格的なピザランチを頂き(美味しかった!)帰宅の途に就いた。今回は珍しく天気にも恵まれよい山行となった。林さん荒井さんありがとうございました。

文責 深谷篤志



朝の富士山



梯子を登る林さん



稜線での荒井さん